

長崎県窯業技術センター
株式会社 燦セラ139GAMA

■目的

以前から、自らハンドドリップで淹れ、豆の個性を楽しむ消費者は多い。

そこで、地球環境の観点から、使い捨てのペーパーフィルターではなく、水洗により、繰り返し使用できるセラミックス製コーヒーフィルターの量産化技術について検討を行った。

■方法

アルミナを主原料とし、各種可塑性原料を添加することで、機械ロクロでの成形性について検討を行った。

■結果

従来は石膏型に手で原料を押し付け成形を行っていた。そのため、量産化が困難だけでなく、品質もばらつきやすいといった問題点があった。

そこで、原料に可塑性を付与することで、機械ロクロ成形(図1)が可能となり、セラミックス製コーヒーフィルターの量産化と品質の安定化が達成された。

さらに、機械ロクロ成形が可能となったことで、図2に示すように、内と外の原料を変えることで、今までにないツートンカラーのコーヒーフィルターの製造も可能となった。

また、従来からの問題点として、ドリップ後のフィルターの目詰まりについても、図3に示すように、ソーク・ホルダーを付属することで、湿度を保ち、コーヒー豆のこびりつきが抑制された。

更に現在、多色化への展開(図4)を図るなど、商品群の拡大を進めている。



商品名:セラフィル



図1 機械ロクロ成形



図2 ツートンカラーの製品

目詰まりの心配なし! コーヒータイムが予備洗浄に!
「CeraFil ソーク・ホルダー」の隠れた働きとは?

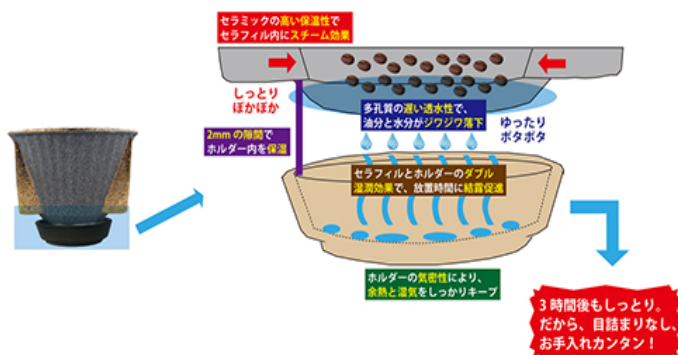


図3 ドリップ後の目詰まり対策



図4 多色化への展開 (商品名:CALACERA)